

# ストラクチャー加工後の手入れ【選手向】



ストラクチャー加工後、そのままでも滑走性は得られますが 最速を求める選手は雪上までに次のような手入れ、チューンナップをおすすめします！

雪上までに高温用ワックスから低温用へホットワックスします（下記参照：雪上までに行うチューンナップ）この作業により 滑走面をアイロンの熱に慣らしながら ワックス吸収力の優れた滑走面に仕上がります。

この作業では 同時にスクレーピングとブラッシングを繰り返すので、滑走性の妨げになる細かいケバも取れます。特にスチールやブロンズブラシはストラクチャー奥深くのケバまで取り除きます。さらに、ストラクチャーに丸みも出ますので どこでも滑るスキーに！仕上がります。

## ☐ 雪上滑走までに行いたいチューンナップ！



### A 基本作業

1. WAXを塗る (①→②→③)
2. 15分程度冷やした後スクレパーで剥がし、ポアブラシでブラッシング。
3. さらに！ブロンズブラシで3回ブラッシングし、滑走面のケバを取り除く（大切！）
4. ファイバーテックス（粗目）を3から5回かける

①

Aの基本作業を イエロー系ワックスで (SWIX PS10, ガリウム ピンクなど) 5回 行う

②

Aの基本作業を レッド系ワックスで (SWIX PS8, ガリウム バイオレットなど) 5回 行う

③

Aの基本作業を ブルー系ワックスで (SWIX PS6, ガリウム ブルーなど) 3回 行う

※サーモバッグ仕上げのスキーは ③ のみでOK！

## ☐ 雪上までにチューンナップができない場合は？

最初からレッドやブルー系のワックスを塗布することだけは避けてください。滑走面がアイロンの熱で焼けます。シーズンイン1週間程度は雪温に関係なくイエロー系のワックスで滑走を繰り返し、その後レッド系で3～4日、ブルー系で2～3日繰り返すことで滑走面を守りながら仕上げるができます

## ☐ 雪上シーズンの日々のチューンナップ



滑走後はブロンズブラシ（粗目）でブラッシング、ファイバーテックス（粗目）で磨いた後ワックス。この作業と雪上での滑走を繰り返すことでストラクチャーが滑らかになり徐々に最速スキーに仕上がっていく。仕上がったスキーは滑走面にツヤ、黒光りしたようになります。この状態になれば使用するブロンズブラシやファイバーテックスを細目に変えて日々のチューンナップを行うことでベストな滑走面をキープできます。

最後に塗布したWAXはスクレーピング、粗目ブラシのあと、ポリッシュブラシなどの細目ブラシでワックスを取り除くことがとても大切です。滑走性は大きく大きく向上します

## ☐ 主なストラクチャーパターンは？

もっと詳しく？

- 【 P1・L5 】 11月の北海道や寒冷地でのレースでは必須
- 【 L6浅め 】 11月の北海道からシーズンを通してオールラウンドに対応
- 【 R0.4浅め 】 降雪時や結晶のハッキリした雪におすすめ。
- 【 Fオリ・P5 】 圧雪、堅雪コースでは抜群。降雪時はハンドストラクチャーで対応
- 【 L6・R0.5 】 水分の多い湿雪専用

